

TAKE
FREE

クラシック音楽メディアのポータルサイト

レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE

FREE MAGAZINE
202605

特別企画「モノラル録音期のベートーヴェン」展開中♪

Vladimir Samoilovich Horowitz
(1903 ~ 89)

CONTENTS

- 02 【新譜月評】2026年4月の特選タイトル一覧+批評抜粋
- 06 【記事一覧】2026年3月20日~4月20日更新の記事一覧
- 07 【厳選!】編集部おすすめコンテンツ

★レコード芸術 ONLINE はこちらから→



制作:「レコード芸術 ONLINE」編集部

レコード芸術 ONLINE、フリーマガジン第9号です。 掲載記事 2,800 本*突破！ ぜひ有料会員登録をご検討ください♪

音楽之友社が運営するポータルサイト『レコード芸術 ONLINE』編集部フリーマガジンです。今号には、2026年4月の新譜月評特選タイトル一覧＋批評抜粋、直近1ヶ月の記事一覧、編集部のおすすめコンテンツを収録しました。本サイトは月額1,100円(税込)。無料コンテンツも続々。クラシック音楽メディアの芸術史を未来へつなげる批評の場、そして現在を記録・発信する情報の場として、日々更新を続けています。

* 2024年10月からの累計。新譜月評のディスクページを含む。2026年4月20日現在

「レコード芸術 ONLINE」編集部

契約から最初2ヶ月間が100%OFFとなる「年間契約プラン」を開始しました。
詳細は右側のQRコードから♪

レコード芸術 ONLINE はこちらから♪

←の有料会員お申込みページはこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/>



<https://recogei.ontomo-mag.com/order/>

【レコード芸術 ONLINE 新譜月評】 2026年4月の特選タイトル一覧＋批評抜粋

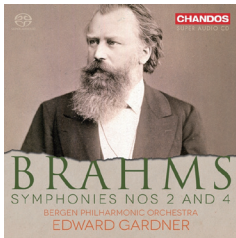
特選＝ダブル評を行ったもので、2名とも「推薦」評価／筆者は敬称略、五十音順／特記のないものは通常CDです



それぞれの批評全文＋他の音源については、
有料会員限定コンテンツとして
「レコード芸術 ONLINE」上でお読みいただけます♪
https://recogei.ontomo-mag.com/disc_review/backnumber/202604/

●オーケストラ曲

	<p>ライヴ・イン・グラーツ 1999 ニコラウス・アーノンクール指揮ヨーロッパ室内管弦楽団, ヴィオレータ・ウルマーナ, エリーザベト・クルマン (S) 他 [ソニー・クラシカル (D) SICCC30939] SACD ハイブリッド</p> <p>♪アーノンクールは「[...] ワーグナーについては、1999年のシュティリアルテ音楽祭(グラーツ)で一度だけ禁を破ったが、当盤はそのライヴ。演奏内容は、真に瞠目に値する……(城所) ♪生前の「アーノンクール劇場」が余さず収録されたライヴ録音。ブックレットも翻訳、日本語解説、対訳に至るまで充実しており、「アルバム」としての魅力にも事欠かない……(小宮)</p>
	<p>ショスタコーヴィチ：交響曲第14番 井上道義指揮オーケストラ・アンサンブル金沢, ナデジダ・パヴロヴァ (S) アレクセイ・ティホミーロフ (Bs) [エクストン (D) OVCL00914] SACD ハイブリッド</p> <p>♪弦楽の響きが、混濁せずに各声部を立体的に重なり合わせつつ進んでいく点にまず目が行く。ダマにならない分離のよさと、遠近のこなれた描き方には……(相場) ♪これまで、レヴェルの高い交響曲全集は少なくなかったが、第14番だけは不満が残るということもしばしばあった。だが、井上道義の演奏は期待以上にすばらしい……(増田)</p>
	<p>エルサ・バレーヌ：交響曲第1番、同第2番《戦争》他 クリスティアン・マチュエラル指揮フランス国立管弦楽団 [ワーナー・クラシックス (D) 217325519 (海外盤, 日本語解説付)]</p> <p>♪これまで彼女の作品が演奏、録音される機会は少なかったが、女性の作曲家の作品を再評価する近年の潮流の中で、バレーヌの作品も演奏の機会が増えている……(増田) ♪マチュエラルが指揮するフランス国立管は、持ち前の明晰で美しいサウンドを活かしつつ、バレーヌの鮮やかなオーケストレーションをきちんと描き出しているのが印象的……(満津岡)</p>



ブラームス：交響曲第2番，同第4番

エドワード・ガードナー指揮ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団
[Chandos (D) CHSA5248 (海外盤)] SACD ハイブリッド

♪ブラームスの交響曲集の後半。前回のアルバムでも流れの良いすがすがしいブラームスを聴かせてくれたコンビだが、本ディスクも…… (石原勇)

♪速いテンポでのスタイリッシュな音楽作りは、どの録音でも共通している […]それが故に圧倒的な情報量を抱えた音楽が耳へ一気になだれ込んで来る…… (広瀬)

●室内楽／器楽曲



ブラームス／ヴァイオリン・ソナタ全集

前橋汀子 (vn) ヴァハン・マルディロシアン (p)
[ソニー・ミュージック (D) SICC19090] SACD ハイブリッド

♪前橋は若手の演奏家にはないブラームス独特の味わいを自らの演奏スタイルと融合させて見事な演奏を繰り広げている。第1番では冒頭から潤いのある深く艶やかな音色で…… (草野)

♪ファンはもちろん、3曲を研究する演奏家にとっても必聴の名盤 […]音色には含み声のような陰翳があり、旋律を含羞の風情をたたえながらしみじみと歌うさまが絶妙で…… (芳岡)



Out of Vienna

レオンコロ四重奏団
[アルファ (D) NYCX10567]

♪ベルクでの喋り演技するかのごとき演奏ぶり […]シュルホフの痛快な演奏 […]斬新な響きの魅力を強く放ってやまぬウェーベルン […]啞然とするほど見事…… (石原立)

♪すでに数えきれぬくらいの団体の演奏がリリースされている《抒情組曲》だが、これほど流麗な演奏も珍しかろう。音楽のあらゆる角が丸みを帯びており…… (長木)



パリのベートーヴェン

Duo Yamane [山根風仁 (vc) 山根友紀 (スクエアピアノ)]
[initié (D) ITE005]

♪この盤の面白い点は3つ。まずこの中では一人ベートーヴェンの作品のみ、異様に発言力が強いこと。「チェロのオブリガート付」とされているが…… (石原立)

♪目の醒めるような面白さだった […]本盤は、ベートーヴェンのチェロ・ソナタに溢れ返る名演奏盤群におなじみの方ほど、新鮮な愉しさを満喫されるのではないだろうか (山野)

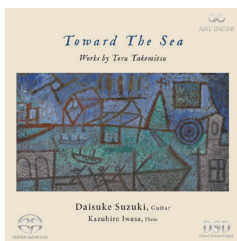


ロスト・トゥ・ザ・ワールド

ダニエル・ロザコヴィチ (vn) エレーヌ・メルシエ (p)
[ワーナー・クラシックス (D) WPCS13886] SACD ハイブリッド

♪ダニエル・ロザコヴィチは […]現在まだ20代半ばではあるが […]人生の郷愁や哀愁、内的な人間の本質に肉薄する極めてスティックであり、また自由で大胆な…… (草野)

♪約100年前の「ヴァイオリンの黄金時代」の復活を、ためらうことなく高らかに宣言しているかのよう […]SPレコードや蓄音機に触れている筆者など嬉しくなってしまう…… (芳岡)



海へ〜武満徹作品集

鈴木大介 (g) 岩佐和弘 (fl)
[アールアンフィニ (D) MECO1087] SACD ハイブリッド

♪武満は […]主旋律を原則としてトップノートに置くのに対し、ギターの中低音域に旋律的な動きが充実。それが鈴木現在の演奏スタイルと見事にマッチしている…… (小室)

♪武満の曲線的な旋律がギター1本でどうすれば効果的に響くかを熟知した鈴木によって、立体的で豊かな音楽となって立ち上がる […]《波の盆》と《今朝の秋》の深い響きは…… (西村)



リサイタル〜グレース

藤澤仁奈 (マリンバ)
[ALM (D) ALM7325]

♪録音の効果も大きいのだが、音色が非常に美しく、雑味がない。そして余韻を十分に活かし、フレーズの組み立てとその連結にも配慮して、いずれの曲も…… (後藤)
♪特に〈シャコンヌ〉の15分にわたる長丁場も集中が全く緩むことなく、構築性とともに変奏それぞれの色彩や表情の違いが引き出されている…… (西村)

●鍵盤曲



忘れられた調べ〜ロシア・ピアノ作品集

アレクサンダー・マロフェーエフ (p)
[ソニー・ミュージックレーベルズ (D) SICCC30937 (2枚組)]

♪「ピアノ界の革命児」と評される人物の演奏という点、ひと昔前ならば並々ならぬ運動能力で技巧を誇示するパフォーマンスが想起されただろう。しかし…… (飯田)
♪デビュー盤には、4人のロシアの亡命作曲家たちの作品が並ぶ。安易な憶測や半可通は避けたいが、祖国を離れて暮らすマロフェーエフであれば、それこそいま彼が…… (新野見)



シューマン

エリーザベト・レオンスカヤ (p)
[エラート (D) WPCS28516 ~7 (2枚組)] SACD ハイブリッド

♪2枚組で変奏曲と2曲のソナタが収録されている。《アベッグ変奏曲》は冒頭の主題から生き生きとしてよく弾み、若いシューマンの淡い詩情と憧れの気分を乗せて…… (那須田)
♪筆者の世代は20世紀の巨匠たちの実演に接することはほとんど叶わなかった。だから想像するしかないが、彼らの音楽がもっていた豊かさとは…… (新野見)



ズートン〜2025年第19回シヨパン国際ピアノ・コンクール・ライヴ
ワン・ズートン (p) アンドレイ・ボレイコ指揮ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団
[NIFC (D) SNIFCCD802 (2枚組)]

♪全曲収録ではないものの、2枚組のディスクを通じて第1次予選からファイナル・ラウンドまで振り返ることができ、彼女の音楽的魅力を改めて深く味わうことができる…… (飯田)
♪ああ、なんと根っからの音楽家なのだろう! […] ショパンの筆の動きがそのまま立体的に浮かんでくるようである。バスの旋律線も十分にその役割を果たして、朗々と歌う…… (野平)



J.S. バッハ：ゴルトベルク変奏曲 BWV.988

イム・ユンチャン (p)
[デッカ (D) UCCD45041]

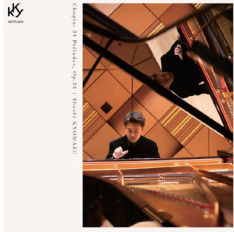
♪新しく挑んだのはバッハ《ゴルトベルク変奏曲》 […] 主題の〈アリア〉は奇をてらわずにシンプルな語り口で奏でられる。装飾も控えめだ。しかし…… (長井)
♪本来は聴き手をリラックスさせるための作品とはよく識られるところだが、ただならぬ強度を保ったこの […] 音楽を耳にして、リラックスできる聴き手は少なからう…… (広瀬)





ロワイエ、デュフリ／クラヴサン作品集

西山まりえ (cemb)
[OMF (D) KCD2101]


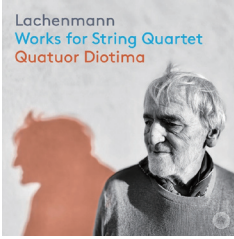
♪西山の同盤は基本的に繊細な音作りで、ロワイエの《ザイード》や《優しい愛情》などは甘い音色でロココの絵画のような可憐さと繊細さ、優美さを湛える一方…… (那須田)
♪劇的なロワイエの作品、そして典雅なデュフリ作品の魅力余すことなく魅力的に表現した好演である。全体的に澆刺としたオープンな性格をもつ演奏で、停滞感はなく…… (鷲野)

	<p>ショパン：24の前奏曲 Op.28 京増修史 (p) [kKy records (D) KKYR004]</p> <p>♪圧倒的な演奏の前では、どんな言葉も無力になる […] 心のどこかではいつも、そのような演奏に出会えることを願っている […] まず抱いたのはそのような所感だ…… (飯田) ♪ショパンの作品の中でもとりわけ難しいもののひとつである《前奏曲集》 […] 京増の演奏の魅力を届けるのに、これ以上相応しいものはなかっただろう…… (長井)</p>
---	---


●音楽史

	<p>バリケード ジャン・ロンドー (cemb) トーマス・ダンフォード (アーチリュート) ミリラム・リニョル (gamb) レア・デザンドレ (Ms) マルク・モイヨン (Br) [エラート (D) WPCS28514] SACDハイブリッド</p> <p>♪ある意味で意表をつく組み合わせである。アーチリュートとクラヴサン、この2つの楽器によって、もともとはリュート曲あるいはクラヴサンのための作品を演奏してゆく…… (美山) ♪すでに輸入盤で数年前に発売されており、その時は十分にアルバム的美質と魅力をとらえることができなかった […] もっと即興性があっても良いのではないかと…… (矢澤)</p>
	<p>リュリ：抒情悲劇《アティス》全曲 アレクシス・コセンコ (指揮・トラヴェルソ) レザンバサドゥール＝ラ・グランド・エキュリー、レ・バージュ・エ・レ・シャントル 他 [Alpha (D) ALPHA1193 (3枚組, 海外盤)]</p> <p>♪一昨年発売のルセ盤、昨年発売のアラルコン盤に続く最新録音で、その特質は […] オーケストラの配置と用法を含めて歴史的な演奏慣習を最大限に採用した点にある…… (水谷) ♪リュリ没後300年の1987年1月 […] 作曲家没後最初となる上演。ウィリアム・クリスティ指揮の演奏 […] この歴史的・記念碑的な録音を、一気に相対化してしまう…… (美山)</p>

●現代曲／ポスト・クラシカル

	<p>musica viva #51 サイモン・ラトル、マティアス・ヘルマン指揮バイエルン放送交響楽団、シュテファン・ティシュラー (tub) 菅原幸子、辺見智子、アレクサンダー・ウェイト (p) [BR Klassik (D) 900651 (海外盤)]</p> <p>♪「ラッヘンマン・イヤー」である2025年 […] 「ムジカ・ヴィーヴァ」での演奏会のライブ。「響影」と訳される《クラングシャッテン》は […] 日本のラッヘンマン受容史初期の作品でもある…… (長木) ♪ラッヘンマン作品を聴き直してみる […] 前景化されるのは、きわめて基本的・根本的な音楽の作り、その骨格の強靭さ […] サイモン・ラトルも、同じことを感じている…… (沼野)</p>
	<p>ヘルムート・ラッヘンマン／弦楽四重奏曲全集 ディオティマ四重奏団 [PentaTone (D) PTC5187223 (海外盤)]</p> <p>♪ラッヘンマンはケージャやブライアン・イーノとは異なった意味での音の革命家である。でもそのためには、極度に優れた演奏家たちが必要であり、それはヨーロッパ音楽の…… (長木) ♪なんだか新たにラッヘンマン・ファンになった気分である […] デイオティマ四重奏団 […] の演奏には、単なる共感を超えた、いわば作品内部からの積極的な発語が感じられる…… (沼野)</p>

●その他

	<p>The Senses ~ブラームス作品集~ 佐藤晴真 (vc) 大伏啓太 (p) [グラモフォン (D) UCCG2114] ※2020年11月初出の再発売盤</p> <p>♪まず《チェロ・ソナタ第2番》からスタートする。ブラームス晩年に近い名曲だが、佐藤の若々しいエネルギーと輝きを放つ音色でいつになく凛々しい曲として蘇っている…… (草野) ♪2020年11月に発売された、佐藤晴真のデビュー・アルバムが、今年2026年に入って再発売された。既に好評を博してきた秀盤 […] この機会にあらためてご紹介しておこう…… (山野)</p>
---	--

相場ひろ 飯田有抄 石原立教 石原勇太郎 小畑恒夫 岸純信 喜多尾道冬 城所孝吉 草野次郎 河野典子
國土潤一 後藤洋 小宮正安 小室敬幸 白石美雪 鈴木淳史 長木誠司 長井進之介 那須田務 新野見卓也
西村祐 沼野雄司 野平多美 広瀬大介 布施砂丘彦 船木篤也 増田良介 満津岡信育 松平敬 水谷彰良
美山良夫 八木宏之 矢澤孝樹 安田和信 谷戸基岩 山崎浩太郎 山野雄大 山之内正 芳岡正樹 鷺野彰子

【レコード芸術 ONLINE】

2026年3月20日～4月20日更新の記事一覧

※有料会員限定コンテンツを含みます

【お知らせ】

- ・【特報】MOOK『クラシック不滅の名盤 300』まもなく発売♪
- ・【2026年4月リリース予定】クラシック音楽新譜 発売情報
- ・「不滅の名盤」特設コーナーに、25点を追加しました！
- ・【特報】MOOK『クラシック不滅の名盤 300』本日発売！
- ・フリーマガジン第8号配布開始！
- ・クラシック音楽 海外盤リリース情報（2026年4月）

【2026年3月新譜月評】

- ・音楽史、現代曲／ポスト・クラシカル、その他

【2026年4月新譜月評】

- ・オーケストラ曲、室内楽／器楽曲、鍵盤曲、オペラ／声楽曲

【最新盤レビュー】

- ・【新コーナー】配信限定！クラシック音楽注目タイトル（2026春） | 編集部
- ・リイシュー & BOX 注目盤（3月） | 編集部
- ・カウフマンの2つの《詩人の恋》50歳と24歳の歌を較べてみれば…… | 堀内修
- ・『ばけばけ』と『豊臣兄弟！』それぞれのサントラに仕掛けられたものとは？ | 東端哲也
- ・世界初演からジャスト100年。演奏史の一里塚となった記念碑的《トゥーランドット》録音がSACD化 | 河野典子

【インタビュー】

- ・【受賞記念】船木篤也氏、第38回（2025年度）「ミュージック・ペンクラブ音楽賞」を受賞！ | 編集部
- ・新譜『メンデルスゾーン：交響曲第2番《讃歌》』をリリースした鈴木雅明に訊く Part 1 & 2 | 那須田務

【レポート】

- ・東京・春・音楽祭 2026 アレクサンダー・マロフェーエフ | 長井進之介
- ・ヤクブ・ユゼフ・オルリンスキ 来日記者会見 | 編集部

【特別企画 リヒターとアーノンクール】

- ・アーノンクールとHIPの「起源」コンセルトヘボウ管とのモーツァルトに関する考察 | 矢澤孝樹
- ・フィッシャー＝ディースカウ降臨！：DFD、カール・リヒターを語る | 岡本和子
- ・対談 リヒターかアーノンクールか【前編】【後編】 | 船木篤也×矢澤孝樹

【特別企画 モノラル録音期のベートーヴェン】

- ・ベートーヴェンのピアノ・ソナタ モノラル録音期と現代の演奏はなにが違う？ | 新野見卓也

【特別企画《指環》初演150周年】

- ・パイロイトから日本へ《ニーベルングの指環》国内上演小史～マエストロ飯守の“大著”刊行を機に | 吉田真

【速報レポ】

- ・仲道郁代 ピアノ・リサイタル 音楽の哲学 記者懇親会 | 編集部

【連載】

- ・音符の向こう側 第18回 好きだけど嫌いな(?) 二大オペラ | 城所孝吉
- ・名演奏家再批評 File03 オイゲン・ヨッフムと対話する③～④ | 石原勇太郎
- ・名演奏家再批評 File04 かくして私はホロヴィッツに熱中した①～③ | 長井進之介
- ・プレルーディウム 第19回 旧世界より | 船木篤也
- ・女性作曲家に魅せられて 第5回 メル・ボニスに魅せられて 生涯・作品編 / 録音編 | 小林緑、谷戸基岩

【レコ芸アーカイブ】

- ・『レコード芸術』新譜月評クロニクル 第1回 1975年（前篇）1月号～5月号 | 芳岡正樹
- ・名演奏のディスコロジー 第4回 ズーカーマンのブラームス/Vn ソナタ | 柴田南雄

【厳選！】編集部おすすめコンテンツ

[特別企画 モノラル録音期のベートーヴェン]

ベートーヴェンのピアノ・ソナタ

モノラル録音期と現代の演奏はなにが違う？

執筆者：新野見卓也（ピアニスト・音楽評論）

投稿日：2026.04.16

有料会員限定コンテンツ

[このディスクが登場します]

『ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ全集』（2016年リマスター）

アルトゥール・シュナーベル（p）

〈録音：1932年1月～35年11月〉

[Warner Classics (M) 9029597505 (8枚組, 海外盤)] CD



ここから読めます♪

2027年に没後200年を迎える作曲家ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1826）。そのカウントダウン企画第2弾「モノラル録音期のベートーヴェン」では、1950年代以前の名盤に注目します。

こちらの記事はピアノ・ソナタ録音の、モノラル期と現代の比較。指揮者ハンス・フォン・ビューローが「音楽の新約聖書」と呼んだこの曲の演奏のされかたは、昔と今で、どのように違っているのでしょうか。

[インタビュー]

新譜『メンデルスゾーン：交響曲第2番《讃歌》』をリリースした
鈴木雅明に訊く Part 1 & 2

訊き手・文：那須田務（音楽評論）

取材協力：バッハ・コレギウム・ジャパン、ナクソス・ジャパン

投稿日：2026.04.14

無料コンテンツ

[このディスクが登場します]

『メンデルスゾーン：交響曲第2番《讃歌（賛歌）》』

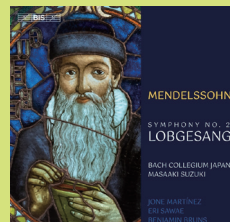
鈴木雅明 指揮バッハ・コレギウム・ジャパン（合唱・管弦楽）

ジョネ・マルティネス，澤江衣里（S）

ベンヤミン・ブルンス（T）

〈録音：2024年10月〉

[BIS (D) NYCX10579] SACD ハイブリッド



ここから読めます♪
(Part1)

鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン（BCJ）による新譜『メンデルスゾーン：交響曲第2番《讃歌》』がスウェーデンのBISからリリースされた。2024年に所沢市民文化センター ミューズで録音が行なわれたSACDハイブリッド盤だ。

BCJは2012年に《聖パウロ》、2021年に《エリヤ》とメンデルスゾーンのおラトリオを演奏していて、聖書を題材にした合唱や独唱を伴う管弦楽作品という点で、今回の《讃歌》はこれらの延長に位置づけられよう。

Part1では、BCJのメンデルスゾーンへの取り組みはいつ頃始まったのか、そして鈴木雅明さんにとってのメンデルスゾーンがどのような存在かについて、Part2では、この作品をピリオド楽器で演奏することや、録音の聴きどころについて、大いに語っていただいた。

[特別企画 リヒターとアーノンクール]
対談 リヒターかアーノンクールか
船木篤也×矢澤孝樹【前編】【後編】

まとめ：編集部
投稿日：2026.04.04-05
有料会員限定コンテンツ

[このディスクが登場します]
『J.S. バッハ：マタイ受難曲 BWV.244』
カール・リヒター指揮ミュンヘン・バッハ o, 同 cho, 他
〈録音：1958年6月～8月〉
[アルヒーフ (S) UCCA6001] CD



ここから読めます♪
(前編)

特別企画シリーズ「カール・リヒターとアーノンクール」完結編。音楽評論家の船木篤也さんと矢澤孝樹さんによる対談です。同時代に生きながら、まったく異なるアプローチでバッハ演奏の地平を切り開いた二人——その違いはどこにあり、どのように受け継がれてきたのでしょうか。
戦後ドイツとオーストリアという歴史的背景の差異から、演奏における「精神」と「方法」の問題、さらには現代のHIP（歴史的演奏）に至るまで、議論は多角的に展開します。リヒターとアーノンクール、それぞれの到達点と限界、そして現在における意味をあらためて問い直します。

[連載]
名演奏家再批評 File04
かくして私はホロヴィッツに熱中した①

文：長井進之介（ピアニスト／音楽ライター）
投稿日：2026.04.03
無料コンテンツ（2回目以降は有料会員限定コンテンツ）

[このディスクが登場します]
『ホロヴィッツ・オン・テレヴィジョン』
ウラディミール・ホロヴィッツ (p)
〈録音／収録：1968年1月～2月 (L)〉
[ソニー・クラシカル (S) SICC30801～02 (2枚組, CD+DVD)]



ここから読めます♪
(1回目)

金曜連載「名演奏家再批評」第4弾。レコード芸術 ONLINE の新譜月評担当筆者でピアニストでもある長井進之介さんが、ある映像との出会いによって突然その演奏に魅了されたという、ウラディミール・ホロヴィッツについて再批評していきます。全4回のうち、1回目は無料公開、2回目以降は有料公開です。

広告募集中

お問い合わせ：
(株)音楽之友社「レコード芸術 ONLINE」編集部
〒162-8716 東京都新宿区神楽坂 6-30 / E-mail: reco_online@ongakunotomo.co.jp

[レコード芸術 ONLINE 公式 SNS のご案内]
記事の更新情報などを発信しています♪

また、お読みになったご感想を、#レコード芸術 ONLINE を添えてぜひご投稿ください。

